

問題

1. ChatGPT に「EU 法の直接適用可能性の特色につき、500 字程度で説明せよ。」と命じると、以下の回答が得られた。これでは合格点を与えることができない。修正してみよう。

EU 法の直接適用可能性（direct applicability）とは、特定の EU 法規範が加盟国の国内法に変換されることなく、そのまま各国で適用される性質を指します。これは EU 法の効果的な施行と統一的な適用を確保するための重要な原則です。

EU 法の中でも、規則（regulations）は直接適用可能性を持つ代表的な法形式です。EU 機能条約第 288 条によれば、規則は「そのすべての部分について拘束力を持ち、すべての加盟国において直接適用される」と定められています。これにより、規則は各加盟国で国内法の制定を待たずに、直接的に法的効力を発揮します。

一方、指令（directives）は加盟国に対して特定の結果の達成を義務付けますが、その方法や形式の選択は各国に委ねられています。したがって、指令は直接適用可能性を持たず、各国が国内法を通じて実施する必要があります。ただし、EU 司法裁判所の判例により、指令が適切に国内法化されていない場合、一定の条件下で個人が国家に対して指令の規定を直接主張できる「直接効果（direct effect）」が認められることがあります。

EU 法の直接適用可能性は、加盟国間での法の一貫性と統一性を維持し、市場統合や共通政策の効果的な実施を可能にするための基盤となっています。これにより、EU 全体での法的安定性と予見可能性が確保され、個人や企業は各国の国内法を超えて EU 法に基づく権利や義務を直接享受することができます。

2. ChatGPT に「EU 法の優越性の特色につき、500 字程度で説明せよ。」と命じると、以下の回答が得られた。こちらの方は合格点ぎりぎりと言えるが、改善の余地は多々ある。修正してみよう。

EU 法の優越性（supremacy of EU law）とは、EU 法が加盟国の国内法、さらには憲法よりも上位に位置し、両者が矛盾する場合には EU 法が優先して適用されるという原則を指します。この原則は、EU の法秩序の統一性と効果的な機

能を維持するための基盤となっています。

この原則は、1964 年の「コスタ対 ENEL 事件」において欧州司法裁判所 (ECJ) が示した判決に端を発します。同裁判所は、EU 法は独自の法秩序を形成しており、加盟国の国内法に優先すると判示しました。これにより、加盟国は自国の法律や憲法が EU 法と矛盾する場合、EU 法を優先的に適用しなければならないとされています。

しかし、近年ではこの原則に対する挑戦も見られます。例えば、2021 年 10 月にポーランドの憲法裁判所は、一部の EU 法の条項がポーランド憲法と両立しないと判断しました。この決定は、EU 法の優越性と EU 司法裁判所の権威を無視するものとして、EU 委員会から深刻な懸念が示されています。

EU 法の優越性は、加盟国間での法的統一性を確保し、市場の一体性や共通政策の効果的な実施を支える重要な原則です。しかし、各国の主権や憲法との関係において、時折緊張が生じることもあり、EU と加盟国との間での継続的な対話と調整が求められています。